

令和元年度 第1回生駒市地域公共交通活性化協議会
議事概要

日 時 令和元年6月27日(木) 午後3時～午後5時

場 所 市役所4階 大会議室

出席者

- (委員) 小紫会長(代理:山本副市长)、喜多副会長、森岡副会長、米田委員(代理:木村様)、池田委員(代理:岩藤様)、金口委員(代理:山本様)、井上委員、金田委員(代理:木元様)、伊藤委員(代理:小西様)、霜永委員(代理:内藤様)、黒部委員、平岩委員、藤澤委員、松尾委員、矢田委員、山下委員
- (事務局) 生駒市(杉浦総務部長、澤井総務部次長、杉原防災安全課長、清水防災安全課課長補佐、寺西係員)、岸野都市交通計画コンサルタント株式会社(岸野)、セントラルコンサルタント株式会社(岡本、橋本)

欠席者

- (委員) 村田委員、葛城委員、西村委員、村上委員

議 事

1 報告案件

- (1)平成30年度 各路線におけるコミュニティバスの利用実績の評価結果について
- (2)各路線におけるコミュニティバスの利用状況について
- (3)萩の台線及び西畑・有里線における新たな運行経路と運行ダイヤの検討

2 審議案件

- (1)平成30年度 決算及び監査について
- (2)地域内フィーダー系統確保維持計画(案)・変更について
- (3)生駒市地域公共交通総合連携計画及び地域公共交通網形成計画における計画内容の確認と各計画の今後の検討方針について

3 その他

- (1)今後の会議予定
- (2)その他

配布資料

[前回協議会の議事録]

[分科会の議事概要]

[資料1]平成30年度 各路線におけるコミュニティバスの利用実績の評価結果について

[資料2]各路線におけるコミュニティバスの利用状況について

[資料3]萩の台線及び西畑・有里線における新たな運行経路と運行ダイヤの検討(案)

[資料4-1]平成30年度 生駒市地域公共交通活性化協議会 決算書

[資料4-2]平成30年度 会計監査報告書

[資料5-1]地域内フィーダー系統確保維持計画(案) 変更

[資料5-2]地域内フィーダー系統確保維持計画(案)

[資料6]生駒市地域公共交通総合連携計画及び地域公共交通網形成計画における計画内容の確認と各計画の今後の検討方針について

[参考資料1]萩の台線、西畑・有里線におけるヒアリング調査の取りまとめ

[参考資料2]生駒市地域公共交通総合連携計画の主な検討経緯について(ロードマップ)

[参考資料 3]生駒市地域公共交通活性化協議会における議事項目一覧 (H21～H29 年度)

[参考資料 4]生駒市地域公共交通総合連携計画における評価項目の評価について

[参考資料 5]地域公共交通網形成計画の検討イメージ (国土交通省より)

[参考資料 6]アンケート調査票 (案)

主な議事内容

1 報告案件

(1)平成 30 年度 各路線におけるコミュニティバスの利用実績の評価結果について

○資料 1 に基づいて事務局から報告した。

○委員から特に意見はなかったことから議長が報告案件(1)について了承を求めた結果、全委員が了承した。

(2)各路線におけるコミュニティバスの利用状況について

○資料 2 に基づいて事務局から報告した。

○委員から特に意見はなかったことから議長が報告案件(2)について了承を求めた結果、全委員が了承した。

(3)萩の台線及び西畑・有里線における新たな運行経路と運行ダイヤの検討

○資料 3 その他参考資料に基づいて事務局から報告した。議長から、光陽台線について値上げ後乗車人数が減少しているが、乗らなかった方はどうされているか等の情報は承知しているのか。との発言に対し、委員から、芸術会館へ行くのは徒歩で行くようにしたとの話は聞いている。との発言があった。

○他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が報告案件(3)について了承を求めた結果、全委員が了承した。

2 審議案件

(1)平成 30 年度 決算及び監査について

○資料 4-1 及び 4-2 に基づいて事務局から説明した。委員から、予算額に比べ支出額が少ないとの発言に対し、他の委員から、前年度(平成 29 年度)に会議が多く、平成 30 年の予算額を増やしたが、実際は分科会が開かれなかったためと聞いている。との発言があった。また、議長から、協議会だけでは議論しきれないので、今年度は分科会を開催し議論していきたい。との発言があった。

○他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が審議案件(1)について承認を求めた結果、全委員が承認した。

(2)地域内フィーダー系統確保維持計画(案)・変更について

○資料 5-1 及び 5-2 に基づいて事務局から説明した。議長から、資料 5-2 の 1 頁下から 9 行目の「地域」の範囲を明確にしてはどうか。また、2 頁の①、②の目標数値について、当初はいわゆる公共交通族に占める割合だったとの記憶があるが、人口に占める割合になった経緯を知っていれば教えてほしい。また、6 頁の運行系統名は店舗名より地名の方が良いのではないかと。との発言に対し、事務局から、「沿線地域」との記述に修正すること。また、目標数値が変更したかどうか経緯は承知していない。また、運行系統名は近接する交差点名「壱分町東交差点」から「壱分町東暗峠」に修正する。との回答を行った。

○議長から、目標数値について今回この案で出してもらって結構だが、今後目標の立て方

を検討してみる必要もあるのではないかと発言があった。

○他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が審議案件(2)について承認を求めた結果、全委員が承認した。

(3)生駒市地域公共交通総合連携計画及び地域公共交通網形成計画における計画内容の確認と各計画の今後の検討方針について

○資料6 その他参考資料に基づいて事務局から説明した。議長から、なぜ新しい計画（形成計画）を策定しなければならないのか整理しておくことが大切で、急速な高齢化による市民の行動変化もある中、活力ある生駒市にするにはどういったことがあれば良いのか等の提案や意見をいただきたい。検討時間が限られている中で焦点を絞って進めていきたい。との発言があった。

○委員から、（生駒市は）南北に細長く傾斜があり山谷でさえぎられており、交通連携をどのようにすれば良いのか、全国的なモデルがあれば教えて欲しい。との発言があった。

○委員から、形成計画の範囲が広く捉えどころがない。人口構成の変化、核家族化等の社会的なことや傾斜等の地形的なことを含めてどういった方法が良いのか考えている段階である。との発言があった。

○議長から、全体的に検討するとなるとつかみどころがなくなる。生駒市の特長を克服できるような移動手段を作るといった観点から考えるといろいろ見えてくるのではないかと。例えば、アシスト自転車補助やバス、鉄道、タクシー等公共交通の組み合わせも必要と思う。との発言があった。

○事務局から、公共交通はある程度まとまった利用がないと効率的にならないので、どういう形で公共交通を考えていくか非常に難しい。また、世帯構成も変わっていて子どもが出て行って老夫婦だけになり公的な助けが必要となるなど、答えはすぐにはないが非常に重要なテーマであり、考えなければならない視点である。との発言があった。

○委員から、地区でも75歳を超えた方が多く、高齢者の事故が多いので免許返納しようかと悩んでいる話を聞く。免許返納を切り口にできないか。コミバスの次は何が良いのか勉強していきたい。また、中村屋方面で積み残しが出たらどうするか、地域で助け合って何とかできないかそういうシステムを考えてほしい。また、市の福祉部局でもいろいろやっているのでは会議に入ってもらえば良い方向に行くのではないかと。との発言があった。

○議長から、車を使うか使わないか2択ではなく、高齢者限定免許や安全装置付車など順番に乗り換えていくシステムがあれば良いのではないかと。市でどういったことが可能か検討しておくべきではないかと。との発言があった。

○委員から、今後、福祉部局や都市計画部局等との連携が出てくるので必要に応じて会議に入ってもらおう。また、今後すごい勢いで高齢化するので、生駒市ならではの考え方がいる。公共交通だけでなく広い目で見たい検討が必要でいろいろ議論していきたい。との発言があった。

○委員から、（自身の）免許返納は行動範囲が限られるのでできない。既存車への（踏み間違え）制御装置の助成を考えてほしい。また、狭い範囲の運用が可能なのでコミバスより住民が支えあう移動手段を考えた方がよい。また、国土交通省の事例は地方型ばかりなので、都市型住宅都市である生駒市タイプで地域住民が暮らしやすい移動手段を分科

- 会等で考えていくべきではないか。との発言があった。
- 議長から、生駒市で暮らしていく上で困っていることや生駒市特有の課題を特定し、問題をはっきりさせ対策を検討することが大切であり、その方が焦点を絞った検討ができるのではないかと。との発言があった。
 - 委員から、バス運行で通勤時間と日中では違う走り方をする地域もあり、今までどおりのバス運行で良いのかの視点も必要になってくる。また、バス運転手が足りていないことから、このまま人員の確保ができないことが続くとバスを止める可能性も今後は想定される。計画を検討する場合はそのような事情もくみ取っていただきたい。との発言があった。
 - 議長から、ある一つの手段でまとめてやることは難しい。手分けして、例えば近隣の助け合いで移動できるシステムを作れるかどうか。安定的にサービスを提供することが難しいので頓挫するケースもある。一律全市にサービスするのは難しいのが地域の特性であり、何ができるのか、何が適しているのか、また、どういう候補があるのかということを知っておく必要がある。それぞれの地区が抱えている、また、市で共通する特定の問題を絞り込み、それに対してどういう方法があるのかを考えていくことになるのではないかと。との発言があった。
 - 議長から、警察も免許返納についていろいろ考えていることがあると思うが。との発言に対し、委員から、免許返納ではバスやタクシー等の割引支援制度がある。また、限定免許については警察庁で検討中であり詳しい内容はまだわからない。との発言があった。
 - 委員から、運転免許を返納した時の特典について周知啓発が進んでない。との発言に対し、他の委員から、最近自治会を通じて免許返納についてのチラシ回覧があった。との発言があった。
 - 議長から、今ある技術や制度だけでどうしていくか。先ほど話があった（踏み間違い）制御装置は相当広がってきている。との発言があった。また、委員から、既に助成を決めている行政もある。との発言があった。
 - 委員から、（踏み間違い）制御装置の助成については前向きに検討したい。との発言があった。
 - 議長から、返納するかしないかの2択ではなくなると状況が改善される。恐らく、これがネックになっているというものがあると思うのでそれを皆さんから出してもらい、本日の資料を絞り込んで検討していく形で、急いで進めていきたい。との発言があった。
 - 委員から、考え方の方向性としては良いと思う。資料の2頁にある地区内の状況が変化していれば対応策が変化するので、最新のデータがあれば教えて欲しい。との発言があった。
 - 議長から、アンケートは自治会長が回答することを想定しているのか。との発言に対し、事務局から、例えば各地区の自治会連合会長やその地区の実情を知っている方にヒアリングしながら実施するなどが想定される。との回答があった。
 - 議長から、このアンケートの回答は住民レベルではない。詳細な調査ではなく、なるべく早く現状を把握したいので急いで実施することを想定したアンケートだと思う。全自治会長に聞くのも大変で、具体的には協議会委員である各地区の自治連合会長の方々に

お願いするのかなと思う。との発言があった。

- 委員から、アンケートの結果から何をしてもらえるのか。との発言に対し、事務局から、コミバス運行地区でまだ困っていることはあるのか。また、運行されていない地区でどういうところに困っているのか等、今後どの地区に、また、どのような方法で公共交通サービスを提供していくのか等検討していく判断材料としたい。との回答があった。
- 委員から、買い物や病院ばかりをアンケート対象にされても男性は関係ない。囲碁、カラオケ、飲み屋に行くが生駒は地域的に見るとちょっとした飲み屋もない。現状を把握しながら70歳や80歳を過ぎた人に来てもらって飲む、歌う、商店街で買い物してもらうのが大事で、年寄りが集まる場所はどこなのかを調べてもらい、それに基づいて年寄りが集まってもらうような内容も含めてアンケートに取り入れてもらいたい。との発言があった。
- 議長から、以前あった着地側の議論で、着地側は実用的な場所だというご提案だと思う。また、アンケート内容は見直すとして、全体としてはポイントを絞って検討していくことで基本的にはこれで進めていきたい。との発言があった。
- 委員から、アンケートの(5)は設問がアバウトで書きにくい。何を求めたいのか、公共交通に求めているのは何か選択肢を載せることも必要ではないか。との発言があった。
- 他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が審議案件(3)について了承を求めた結果、全委員が了承した。

3 その他

(1) 今後の会議予定

- 事務局から、第2回協議会を9月25日(水)午後3時、市役所403・404会議室で開催すること。また、それまでに分科会の開催も検討したい。との説明を行った。

(2) その他

- 事務局からは特になし

以上